Kishinkyo Letter
一般財団法人 機械振興協会 会報
2021年春号
No.03

CONTENTS

[TOPICS] 地元中小企業を元気にするエコノミックガーデニング‥‥p1-2
[経済研究所より] 地域を元気にするお手伝い～図書館でのビジネス支援サービス～‥‥p3
[経済研究所より] 大学生の職業意識に関する調査から‥‥p4
[インフォメーション] 第56回 機械振興賞 受賞候補者募集‥‥p4

TOPICS

地元中小企業を元気にするエコノミックガーデニング

拓殖大学政経学部 経済学科 教授　**山本尚史**

【略歴】
筑波大学を卒業後、三井銀行、世界銀行、海外経済協力基金、国際教養大学等を経て、2011年4月より拓殖大学政経学部に勤務。経済学博士。
総務省地域力創造アドバイザー、地域活性学会理事としても活動。

「エコノミックガーデニング（Economic Gardening: EG）」は、一言でいえば地域経済活性化手法です。企業誘致に依存せず、地元の中小企業を応援し成長させることで地元に雇用を作り、経済の活性化を図るものです。アメリカで生まれた手法ですが、アメリカで実践されているものと日本で実践されているものとには違いがあります。

アメリカ流のEGは、急成長しそうな中小企業に着目します。「ガーデニング」という名の通り、地元経済を「庭」と見立て、成長力のある企業が「花開く」ように、斬新なアイディア、人材、ビジネス情報、資金を集中的に注ぎ込んで育てるのです。ところが、日本の地方都市では、人口規模が15万人程度以上でないとこういう企業が簡単には見つけられないでしょう。また、このやり方は、特定の企業群を応援する方法が一種のえこひいきとも見えるために、受け入れにくいのではないかと思います。アメリカと日本では経済風土が違うので、手法にも違いができるのは当然ですね。

日本流のEGでは、対象を地元企業全体に広げていますし、さらに、個別企業の応援ではなく、様々な地元企業が根付いている「土壌」の改良を図ります。私は、地域経済活性化を図る上でとても重要なのは、地域経済の「土壌改良」つまり、ビジネス情報のネットワークをアップグレードすることだと思います。言ってみれば、痩せた土壌とは情報の流通が滞っている状態であり、肥沃な土壌とはビジネスに有益な情報が盛んに行き交っている状態ですね。私の印象では、地方都市では、ビジネス情報の流通が保守的と言いますか、属人的で、制度化されていないようです。これに対処しようとしてビジネス情報プラットフォームを設置しても、それだけでは情報は流通しません。適切なビジネス情報がタイミングよく流れることで地元企業の生産物にこれまでよりも大きな付加価値が生まれるのですが、そのためには、ビジネスに関わる人々の間で、お互いの信頼関係が必要です。

一度信頼関係が構築できれば、それを基盤にして活動が展開できます。例えば、千葉県の山武市の例では、市役所と商工会

地元中小企業を元気にする エコノミックガーデニング

拓殖大学政経学部 経済学科 教授　山本尚史

青年部の双方にやる気とリーダーシップのある人材が揃っていたこともあり、両者がパートナーとなってエコノミックガーデニング推進協議会を作りました。この協議会で必要な施策を協議し、協議会のなかに地元の中小企業がメンバーとなったワーキンググループをつくり自分達の発案で試作品づくりなどの活動をしています。試作品の原材料には地元産の農産物を用いたそうですが、これも協議会の活動がなければ、こういう原料が安価に欲しいという声と、手元にあるものを売りたいという声とをマッチングさせることは出来なかったそうです。

信頼関係を築くにはきめ細かな仕掛けが必要です。日本流EGを実施するときに気をつけたいところは、単に成功事例をもとにパッケージ化された仕組みを作って全国展開すればよい、とはならないところです。もちろん、EGにはパターン化できるところはありますが、それを活かせる仕組みを地元の状況に合わせてローカライズすることが一番大事なのです。

地域経済の土壌を肥沃にして地元の中小企業に貢献する仕組みにはどのようなものがあるでしょうか。一つの例は、ビジネス支援図書館、すなわち地元の公共図書館です。多くの人が気付いていないことなのですが、図書館にはビジネスで活用できる情報が豊富にあります。まさに「図書館は市民の情報センター」（元・鳥取県立図書館 小林隆志氏談）なのです。図書館に来ればビジネス情報があるよということをもっと図書館側は報せることが必要ですし、事業者たちはもっと図書館を利用してほしいものです。

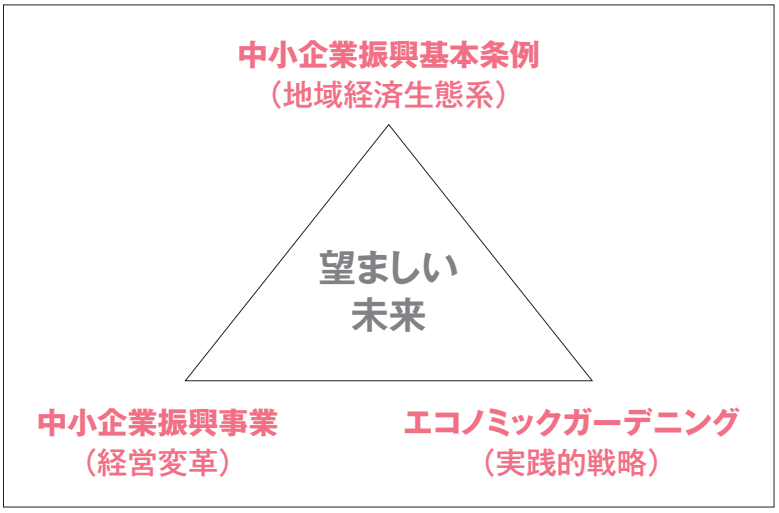
もう一つの例は、人材育成です。いろいろな事例がありますが、一番成功しているのは東北大学と宮城県の取り組みです。これは、革新的な事業をする地元の経営者と、そうした事業者にアドバイスをできる金融機関職員とを同時に育てようとする研修事業です。比較的に短期間で経営の革新と改善につながっているところや、事業者と金融機関との互恵的な関係が継続しているところが、他の人材育成事業と異なるところです。

地域経済の活性化を継続させるためには、経営改革をもたらす各種の事業、その事業を可能にする戦略、それらを法的に裏付ける枠組み、という三位一体が重要です。

今、地方経済はコロナ禍で大きなダメージを受けています。そうしたなかで、情報流通という地域経済の「土壌」を改良する日本流EGはますます重要になってくると思います。また、地域のものづくり中小企業には、隠れた成長企業や巧みに変化する長寿企業が比較的多く、ポストコロナ期の地方経済復活の鍵となりそうです。ものづくり中小企業に支援の焦点を絞ったEGという工夫も必要になるかもしれませんね。

（インタビュー：2021年3月4日 聞き手：結城・森）

地域経済活性化のために



もう少し詳しいインタビュー録を
BICライブラリのHPに掲載する予定です。

経済研究所が運営するBICライブラリは、機械産業に特化した全国唯一の専門図書館で多くの書籍や資料を所蔵しています。どなたでもご利用になれます。

地域を元気にするお手伝い ～図書館でのビジネス支援サービス～

山武市成東図書館　**豊山希巳江**

1. ビジネス支援サービスをはじめる

太平洋を臨む千葉県東部に位置する山武市は、2006（平成18）年に4町村の合併により誕生しました。市内に小規模な図書館が3館あります。

小さな図書館にとって、ビジネス支援サービスは、職員のスキル、予算の面などからハードルが高いものですが、全国の図書館の実践例を学び、地域の人たちの生業を支援することは、地域の人たちが元気になること、この地で安心して暮らしていける基盤づくりとなることにつながると考え、トライすることにしました。

スタートはコーナー展示でした。「ビジネス支援」で取り上げられやすい商業、経済などはジャンルやテーマが広く、出版点数も多いため、小規模の図書館では収集が難しい。そこで、山武市のブランド杉「サンブスギ」から、「農業・林業」に注目して棚づくりを行いました。「moriの本棚」と名づけ、農業や園芸、林業のジャンルの本を図書館の入り口近くに集め、第一歩を踏み出しました。

2. エコノミックガーデニングと図書館 ～地元企業とツナガル。～

山武市では「地元企業が成長する環境をつくる」ことで地域経済が活気づくというエコノミックガーデニング（EG）の考え方を市の政策に取り入れています。（※1）

図書館にできることあるのではと思ったものの、私たち図書館司書にとって、商工会や中小企業の経営者と知り合うきっかけはゼロに等しい状況です。アウェイ感いっぱいの中でも活動への参加を続け、メンバーと知り合い、話ができる場を自らつくりだすことで、図書館への理解を徐々に深めていただきました。

特筆すべきは「チャットビズワーキンググループ」（※2）です。これは異業種の参加者が集まり、対話することで課題解決を目指すグループです。ディスカッション中に必要となった情報、資料を図書館で得られることから、活動場所を図書館に定めて開催しました。図書館に入るのも、本を借りるのも初めて、というメンバーたちでしたが、回を重ねるにつれて、その場の対話の活性化はもちろん、資料の依頼も増えました。

そのほかにも、先進的な事例やビジネスに役立つ情報を得るための「ビジネス支援図書館勉強会」の開催、通常18:00閉館を、月に1日20:00まで開館し、その時間は打ち合わせやディスカッションなどもできる「ビジネスタイム」の導入、中小企業診断士による予約相談なども試行的に行いました。（※3）

3. おわりに…今後へ向けて

現在、新型コロナウイルス感染症や災害など、自治体の抱える問題は幅広く、多様で困難なものばかりです。特に予算は年々厳しい状況です。限られた予算で最大限のパフォーマンスをするために何ができるのか、何を目指していくのかを明確にしていかなくてはなりません。

そのために大切なのが「情報」と「人」です。小さな図書館にとって難しいビジネス支援サービスですが、顔の見える図書館であるからこそできることがたくさん存在します。「地域の人とのつながり」は永遠です。EGのメンバーと直接的に関わる機会は減ったものの、図書館事業でグループの活動を支援したり、参加者募集に協力してもらったり、情報提供したり、話し合ったりと、「人のつながり」は今日も続いています。

※1　『地方経済を救う　エコノミックガーデニング　地域主体のビジネス環境整備手法』（山本尚史）新建新聞社　（2010）188-189

※2　現在は休止中

※3　新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和3年度のビジネスタイムは中止

大学生の職業意識に関する調査から

経済研究所調査研究部では、「2020年度・産業集積の再活性化と地域イノベーションに関する調査研究事業」の一環として、2020年11月から2021年1月にかけて社会科学系の大学生516名を対象に「大学生の職業意識とコロナ・インパクトに関する調査」を実施しました。

この調査では、今回のコロナ禍を受けて大学生の職業意識にどのような変化が起きているのかについて分析しました。その結果、最も変化が大きかったものとしては、「リモートワークができる」「安定した収入が得られる」「福利厚生が充実している」「フレックスタイムなど勤務時間に融通がきく」「通勤に便利である」「転勤が少ない」「副業が可能である」など労働条件に関する項目が上位を占めました。一方、「職場で周囲の人々との信頼関係が築ける」といった人間関係に関する項目や「社会貢献になる仕事ができる」といった社会的評価に関する項目も上位にランキングされました。つまり、この結果からコロナ禍によって大学生が志向している就職先は、「労働条件が充実し、温かみがあり、社会貢献できる職場」であるといった傾向が読み取れます。そして、このようなコロナ禍による学生の職業意識の変化は、特に地方圏により多くの若者を滞留・移住させるためのヒントを提供しているものと考えられます。もちろん、コロナ禍の影響は一過性のものであるといった見方もできますが、リモートワークや副業などの普及はコロナ禍によって加速しています。「コロナ禍を如何にして味方につけられるか」が地方圏の活性化のための1つの条件と言えるでしょう。

なお、この調査では、大学生の出身地、大学の所在地、学年、性別などの違いからも統計分析を行っています。詳細については、調査研究報告書『産業集積の再活性化に向けた地域産業振興の課題－コロナ・インパクトを超えて－』（2021年4月ホームページ掲載）をご覧頂ければ幸いです。

職業意識の変化、質問項目別平均値の比較

回答項目	カテゴリー	平均値
リモートワークができる	（労働条件）	4.02
安定した収入が得られる	（労働条件）	3.94
福利厚生が充実している	（労働条件）	3.78
フレックスタイムなど勤務時間に融通がきく	（労働条件）	3.59
通勤に便利である	（労働条件）	3.54
転勤が少ない	（労働条件）	3.50
職場で周囲の人々との信頼関係が築ける	（人間関係）	3.50
副業が可能である	（労働条件）	3.49
社会貢献になる仕事ができる	（社会的評価）	3.46
職場が地元にある	（労働条件）	3.45
⋮	⋮	⋮

注：数字は1から5までをとり、数字が大きいほど変化が大きかったことを示す。
調査で用いた27項目のうち、平均値の高い上位10項目を順に並べてある。

インフォメーション

第56回 機械振興賞 受賞候補者募集

機械振興協会では、優れた開発や実用化を通じてわが国機械産業技術の発展に寄与した企業・大学・研究機関・支援機関と開発担当者及び成果につながる支援を行った担当者を表彰します。環境、ヘルスケアなど社会課題対応の成果も歓迎です。経済産業大臣以下の各賞があります。ご応募お待ちしております。

【賞】

[研究開発]
◇経済産業大臣賞……80万円
◇中小企業庁長官賞……50万円
◇機械振興協会会長賞……30万円
◇審査委員長特別賞……20万円

[支援活動]
◇中小企業基盤整備機構理事長賞……30万円

【募集期間】 令和3年4月1日（木）～5月31日（月）
【募集方法】 募集方法等は、右記をご参照下さい。

http://www.jspmi.or.jp/tri/prize/
賞事務局　e-mail prize@tri.jspmi.or.jp
tel 042-475-1168

一般財団法人 機械振興協会
Japan Society for the Promotion of Machine Industry
編集・発行　一般財団法人 機械振興協会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8 TEL 03-3434-8224 FAX 03-3434-8003 http://www.jspmi.or.jp/